



■『2026年度 10月 安全・環境パトロール』結果報告

安全パトロール実施

こちらのQRコードから
協力会HPへ入れますー



10月3日（土）トヨタ自動車九州(株) 安全健康推進部にご参加いただき、協力会事務局、指導分科会メンバー
総勢 18名にて、安全・環境パトロールを実施しました

安全パトロール結果

1	重点点検項目	工事管理板・作責・4S点検・電動工具・火気作業・高所作業関係・ロックアウト他
2	点検現場数	宮田工場：43現場 苅田工場：8現場 合計：51現場
3	指摘・指導現場(1件)	 点検チェックリスト 項目13：電動工具・電気機器 №4：差込プラグは、3Pになっているか (二重絶縁構造・家庭用機器等は除く) 2P延長コードや2Pテーブルタップは持込み禁止 (指摘ランクA：5点)：改善通知書の提出 11月度の安パト参加
4	優良現場(0件)	今月の優良現場は、ございませんでした。

TMK 安全健康推進部からのお知らせ

◎令和8年9月 パトロール結果

対象期間：(9/1～9/30) 確認現場数：28件

★主な注意喚起

①現場作業

リスク/分類	注意内容
工事書類	KYM未記入＆サインなし(図1)、5段階TBM未記入
化学物質	SDS表示なし(図2)

②工事書類

工事管理板・工事関係書類に、未記入やルール違反がありました。

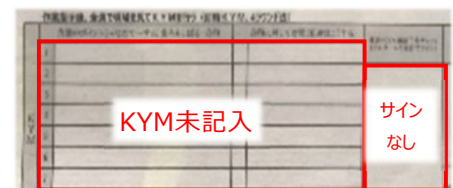
<主な不備内容>

- ・KYMの危険ポイント、対策を事前に記入
- ・代理の作業責任者No未記入

作業責任者は、掲示前および作業開始前に、記載内容の確認をお願いいたします。

★良かった点

開口部に作業場の足場を確保し、作業を実施。
転倒、転落の未然防止が図られていました。(図3参照)



【図1】



【図2】



足場の確保

◎化学物質の取り扱いについて

塗料などの化学物質の取り扱いについて、今一度確認をお願いします。

厚労省 リーフレット抜粋

＜厚労省リーフレットHP＞

◎厚労省リーフレット

QRコード



職場における 労働者が安全に働くために

新たな化学物質規制が導入されます

労働安全衛生法の関係政省令が改正されました

POINT 1	ラベル・SDSの伝達や、リスクアセスメントの実施義務対象物質が大幅に増加します※1	POINT 2	リスクアセスメント結果を踏まえ、労働者がばく露される濃度を基準値以下とすることが義務付けられます※2
POINT 3	化学物質を製造・取り扱う労働者に、適切な保護具を使用させることが求められます※3	POINT 4	自律的な管理に向けた実施体制の確立が求められます（化学物質管理者の選任、リスクアセスメント結果等の記録作成・保存等）

※1・・・国によるGHS分類で危険性・有害性が確認された全ての物質が順次対象に追加
※2・・・厚生労働大臣が定める物質（濃度基準値設定物質）が対象
※3・・・皮膚への刺激性・腐食性・皮膚吸収による健康影響のおそれがないことが明らかな物質以外の全ての物質が対象

これまで以上に事業者の主体的な取組が求められます
ラベル・SDSの伝達やリスクアセスメントの実施がこれまで以上に重要になります

1 SDS及び作業現場の確認

2 リスクアセスメントの実施

3 保護具の着用

局所排気装置の設置

リスク低減措置の実施

SDS等による情報伝達が強化されます

SDSの記載項目の追加や、定期確認・更新が必要になります

- ・ 通知事項に「**想定される用途及び当該用途における使用上の注意**」が追加されます。
- ・ 成分の含有量は、原則として、**重量%の記載**が必要になります。
- ・ 「人体に及ぼす作用」を**定期的（5年以内ごとに1回）に確認・更新**することが義務付けられます。

化学物質を事業場内で別容器で保管する際も情報伝達が必要になります

下記のような場合も、ラベル表示・文書の交付等の方法による、内容物の名称やその危険・有害性情報の伝達が義務付けられます。

- ✓ リスクアセスメント対象物を他の容器に移し替えて保管する場合
- ✓ 自ら製造したリスクアセスメント対象物を容器に入れて保管する場合



電子メールや二次元コード等でのSDS通知が可能になります

SDSの通知手段は、譲渡提供をする相手方がその通知を容易に確認できる方法であれば、事前に相手方の承諾を得なくても採用可能になります。



電子メールの送信



HPのURLや二次元コードの伝達